

# 可能性への 挑戦

— 那珂ビジョン —

令和元年5月  
那珂市



## あいさつ

『那珂(那賀)』の地名は、万葉集や常陸国風土記の中にも登場します。私たちは、悠久の歴史とその中で育った文化、穏やかな気候、そして豊かな恵みを受けて生きてきました。これらは紛れもなく先人の遺産です。そして未来へつなげる資源として、県都水戸市に隣接し、発展するひたちなか・東海地区の後背地にあり、加えて豊かな自然の残る県北の玄関口としての地理的条件に恵まれています。さらには、那珂核融合研究所に代表される先進技術の研究拠点と、5万数千人の人口を有しています。

那珂市は近年、「住みやすいまち」としての評価を上げてきました。しかし、これまでに経験したことのない、経済も人口も縮小していく少子化の時代の中で、持続可能な那珂市を創っていくためには、「住みよきプラス活力あふれる那珂市」を目指していくことが求められます。

そのためには、前述した先人たちの遺産、そして現在の資源を最大限に活かしていかなければなりません。つまり『可能性への挑戦』です。

先ずは人材の育成です。産業・福祉・教育・行政など、市民生活に関わるものすべてが、人によって動いています。このため、人材の育成には大きな可能性があります。幸いにも那珂市には、地域で、職場で、生き活きと活躍している方がたくさんいます。これらの方々をつないで、活力あふれる那珂市を創るコーディネータ役として、市役所が動きます。既成概念にとらわれず新たな発想で果敢に挑戦し、市民と一緒に、那珂市の夢と未来を拓いてまいります。

このビジョンでは、第2次那珂市総合計画に位置付けられている各施策において、力を合わせて「活力あふれる那珂市」を実現するために、特に取り組むべき方向性をお示ししています。

私は、「住みよきプラス活力あふれる那珂市」となるよう、市役所一丸となって全力で取り組んでまいります。市民の皆様、活力あふれる那珂市の実現に向けて、ともに挑んでいきましょう。



那珂市長 光崎 光

## 1 「可能性への挑戦」の視点

那珂市が持つ可能性を活かし、活力あふれる那珂市にするための挑戦、それには、「活力を担う人づくり」、「住みよさを支える活力への支援」、そして「未来を見据えた果敢な投資」が欠かせません。そういった可能性への挑戦を実行するには、「柔軟さ」も必要です。新たな考え方を導入することは、新たな活力を生み出すことにつながります。市役所は市民に対するサービスの提供主体であるというとらえ方から、市役所を「サービスのコーディネータ」、市民を「活力あふれる那珂市を創る主体」というとらえ方へと軸足をシフトし、自発的に活動する個人や団体・事業者と手を携えて、共に力を合わせてまちづくりを進めていくことが重要な視点となってきます。

一方で、活力を呼び起こすには、人的にも、財源的にもその裏付けが必要です。本ビジョンの実現に向けた取組みには、全庁的な協議から共通理解を図り、緊急性、重要性の高い分野に重点的に職員や財源を振り向けることはもとより、既成概念にとらわれない新たな手法が求められます。

### 「可能性への挑戦」の視点

自発的に活動する個人や団体・事業者と力を合わせ、  
将来の夢と未来を描き、活力あふれる那珂市を創造する。

## 2 「可能性への挑戦」の全体像

本ビジョンでは3つの基本方針を設定し、この方針を達成するために必要となる基本姿勢を明確にしました。

さらに、ビジョンで示す「目指すべき姿」を実現するため、現状と課題を明確にし、飛躍への助走期間として令和元年度に取り組む事項を定め、令和2年度からの本格的なプラン実施に向けた取組みを示します。

## 基本方針

活力ある担い手の

# I 育成

- (1) 自治活動への参加意識の形成
- (2) 新たな人材の発掘と育成
- (3) 市民に元気を与える那珂市役所

住みよさを支える活力への

# II 支援

- (1) 活力ある学びと文化への支援
- (2) 安全・快適なまちづくり活動への支援
- (3) 子育て・生きがいつくり活動への支援

活力ある未来への

# III 投資

- (1) 那珂市の地の利を活かした取組みへの投資
- (2) 産業・生活基盤の整備
- (3) 公共施設の適正化

活力あふれる那珂市

## 基本姿勢

- ①市民・団体・事業者の活力との協働（意欲ある市民・団体の力、新たな担い手、民間資力）
- ②国・他自治体との連携（既存団体とのネットワーク、国・県・広域連携）
- ③市役所の変革（機動的な協力体制、職員のモチベーション向上）

### 3 「可能性への挑戦」

#### I 活力ある担い手の「育成」

人口減少・少子高齢化の進行に加え、市民ニーズが多様化・複雑化する中、行政サービスをさらに拡大させ、緻密化させることは非常に困難な状況になっています。

しかし、頻発する自然災害、地域コミュニティの希薄化、担い手不足、これからの公共や民間を担う人材の発掘と育成等、不安や課題が尽きることはありません。そのような中でも、迫る諸課題に自ら対応し、次代の那珂市を担う人材を育成するためには、市の未来を創る「協働参画者」を増やしていく必要があります。

そこで、自治活動への参加意識の形成や、地縁に留まらない新たな人材の発掘、育成をとおして、活力の担い手となる人材の確保、涵養に挑むほか、行政組織の機構改革や職員の意識改革をとおして、活力ある那珂市の形成に挑戦します。

#### (1) 自治活動への参加意識の形成

地域コミュニティの希薄化や少子高齢化の進展によって、地域の課題は個別化、複雑化の度合いを深めています。団塊の世代の高齢化やその先の団塊ジュニア世代のリタイア後の地域生活を考慮すると、自治会内の組織・人材の育成は早急に取り組むべき課題であり、自治会をはじめ、市民活動を行おうとする市民や団体、特に将来を担う若年層を育成していくことは、急務であるといえます。

自治会活動について、その活力を一層呼び起こすためには、その魅力と必要性を再認識してもらうことが重要です。そのためには、自治会の取組みでモデルとなる活動や特色を打ち出していくことが欠かせません。市はその担い手を育成し、自治会活動の成果や特色を広報する機会を充実させることによって、自治活動への参加意識を形成することに挑みます。

加えて、自治会活動に留まらずに、地域の課題を解決しようとする市民、団体に対して、市役所及び職員がどのように関わっていけば団体を育成できるのか、その可能性を検討します。

## (2) 新たな人材の発掘と育成

市の活力を呼び起こすためには、新たな人材を発掘し、育成していくことが肝要です。新たな知見の導入は、それが既存の知見や考えと交感することで、意識改革を広く波及させることにつながるほか、大きなイノベーションを巻き起こすことが期待できます。

そのような状況を創出するためには、関係人口を増やすことが欠かせません。その基盤として、多様な価値観を持った人々が集い、議論し、影響し合える場を整備していきます。また、先進技術を学び、活かせる人材の育成に取り組む必要があります。他方、教育においても特色ある教育を充実させ、市の将来を担う多彩な人材の育成に注力します。加えて、外部人材との交流によって組織の活性化を目指します。これらの取組みにより、新たな人材の発掘と育成に挑戦します。

## (3) 市民に元気を与える那珂市役所

市の活力を呼び起こすためにも、真っ先に市役所自体の執行体制の変革をとおして、実施主体である職員がより機動的に職務を執行できるよう、また執行するよう職員意識を改革していくことが求められます。

まずは、職員研修や職員提案制度等をとおして職員一人ひとりが市の活力を向上させる当事者であると強く自覚するよう意識改革を行います。

その一環として、各施策を企画検討するに当たり、プロジェクトチーム等の組織横断的な協力体制、検討体制を多く用いることで、組織の横のつながりを重視した執行体制を構築します。また、組織目標の設定により、組織が縦のラインをとおして、目標に向かって職務を遂行するという意識づけを図ります。

一方で、ワーク・ライフ・バランスや業務の複雑化を考慮すると、業務フローを標準化、デジタル化していくことは避けては通れません。組織として職員個々の知見を集約し、共有することをとおして、仕事の見える化を推進します。そこで得られた知見を活用し、AIやRPAといった先進手法の導入に挑むことで職員の負担の軽減とモチベーションアップにつなげ、組織の活力向上に挑みます。

## Ⅱ 住みよさを支える活力への「支援」

住みよさは那珂市のかげがえのない資産です。地理的な住みよさはもちろんのこと、生活していくうえでの住みよさは市の活力につながります。生まれた活力は、他の人やモノに影響し、更なる活力を生み、それが市の住みよさを支えます。

那珂市には、自発的に活動する個人や団体、事業者が様々な分野に数多く存在します。そういった市の未来を支える「主体」と市役所とが手を携えて、市の活力を醸成していくことが必要です。

そこで市は、自発的に活動する多様な主体への支援を強力に推進していくとともに、相互に活力を遺憾なく発揮できるような環境の構築を進めます。

### (1) 活力ある学びと文化への支援

那珂市内では、昨今、民間団体によって様々なイベントが開催されており、活力ある若者文化が育ちつつあります。しかし、育ちつつある団体に対して、単なる団体への運営費補助では、団体運営の安定に資するのみであり、そこからの更なる挑戦の機会を逃すリスクがあります。そのリスクを回避するには、「成功体験」の蓄積や、現状に満足しない「向上心」が必要と言えます。

一方、継続的に活動している団体に対しては、引き続き活動が行えるよう、財政的支援だけでなく、更なる活動への意欲を喚起するための刺激となり得る、団体間の横の連携の構築が必要です。

本市は、新たな文化を育もうとする多様な主体への支援と、着実に活動を行っている個人、団体に対し、新たな機会の提供や財政的支援のほか、市を含めた団体間の横の連携を強力に支援します。



## (2) 安全・快適なまちづくり活動への支援

活力を発揮できるようにするには、安全であること、快適であることが重要な基盤となります。8年前に本市にも大きな被害をもたらした東日本大震災を契機に、自助・共助の機運が高まる中、自主防災組織や防災士の会、また、防犯協会といった地域の安全を維持するために活動する団体も定着しつつあります。

また、那珂市は地理的にも可住地面積が広いなど、住みよい環境が整っています。その反面、住みよい環境を維持するには、インフラ等の公共物についても、広範囲な対応が必要になるなど、課題もあります。

市では、自ら活動する個人・団体への支援を行うとともに、安全で快適な環境で生活できるまちづくりを効果的・効率的に推進していきます。

## (3) 子育て・生きがいづくり活動への支援

市の活力を呼び起こすためには、市民の余力が必要です。自発的に活動する個人・団体への支援をとおして、活力の種をまき、その活力を市全体に広く浸透させていくことが必要といえます。活動する団体間のネットワークを市が仲介、構築することにより、より活動が活性化され、それによって新たな余力を創出し、更なる活力へとつなげることに挑戦します。

また、活力を広く浸透させて行くためには、社会的障壁を取り除き、だれもが活力を発揮できる基盤が必要です。このため、市では、だれもが活力を持って活動できるよう、民間資力を活用し、保育所や学童保育所に代表されるような基盤を整備するとともに、子育て・高齢者・障がい者などの福祉窓口の連携強化をとおして、活力がいきわたるまちを実現させていきます。

### Ⅲ 活力ある未来への「投資」

市の活力を呼び起こすためには、その活力の基盤となる産業やインフラが必要です。しかしながら、人口減少・少子高齢化の中、いたずらな投資は将来負担を増加させるリスクがあります。加えて本市においては、学校施設を含む多くの公共施設が老朽化しており、既存施設の更新も視野に入れなければなりません。そういった状況で、活力ある未来へ向け投資を行うには、既存施設間の連携や、集約化・複合化という視点、整備する場所が地域活性化の拠点となり得るかという点が検討に当たっての大切なポイントになります。

このような市を取り巻く環境の中で、那珂市を活気ある地域とするためには、長期的かつ総合的な視点を持って挑戦することが重要です。また、その財源の確保等においても工夫を加えて取り組むことが必要といえます。

#### (1) 那珂市の地の利を活かした取組みへの投資

那珂市は東京から100km圏であることに加え平坦な地理、茨城港常陸那珂港区の後背地としての有利な立地を誇ります。また、市の南北を流れる久慈川、那珂川の両河川が作り出した那珂台地は阿武隈山地と関東平野との間で丘陵地特有の変化に富んだ景観を有します。加えて国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所といった先進研究拠点を擁する本市は、新たな産業の可能性を感じさせる、可能性に満ちたまちです。

そこで、地の利、景観を活かし、地域資源を有機的に結び付ける取組みを行います。具体的には、県と連携し企業誘致を一層強化するとともに、那珂核融合研究所の先進技術の知見を活かした産業振興に挑戦し、地域の稼ぐ力を強化します。また、市のポテンシャルを最大限に活かしたサイクルツーリズムに取り組むことで、新たな市の魅力を創出します。

## (2) 産業・生活基盤の整備

那珂市は茨城港常陸那珂港区と常磐自動車道とを結ぶ結節点でもあり、交通・産業の面でも大きな可能性を持っています。また、那珂インターチェンジを有し、県北の産業、観光のハブとしてのポテンシャルを秘めています。加えて、計画されている茨城北部幹線道路や大規模集客施設は、ゲートウェイとしての本市の可能性を高めるチャンスです。一方で、市に活力と魅力がなければ、単なる通過点になってしまうリスクがあるため、来訪される方に市の魅力を発信し、来訪者を呼び込めるような基盤を整える必要があります。基幹道路等の整備をとおして、茨城北部幹線道路、大規模集客施設とインターチェンジを最大限に活用するまちづくりを推進し、来訪者の多様なニーズに対応する受入環境の整備や支援を行うことは重要です。

また、魅力ある製品の開発により稼ぐ力を引き出し、市外に向けた効果的な情報発信の強化、農産物や加工品などの那珂市ブランドの販路開拓と併せて、関係人口の増加に挑戦します。

## (3) 公共施設の適正化

那珂市では、学校施設を含め公共施設が老朽化してきており、人口減少・少子高齢化の社会的要請とも相まって、配置・機能を含め、公共施設の適正化は避けて通れない課題となっております。また、今後見込まれる設備更新への財源的な備えを検討する必要があります。

そのような中で、人的、財政的な余力を生み出すには、学校立地の適正化や消防署の統合、給食センターの管理運営方法の見直しをはじめ、公共施設の最適化を図るための将来を見据えた検討が必要となります。また、建設が予定されている四中学区コミュニティセンターをはじめ、すでに整備された他の公共施設の持つ可能性を再考し、さらなる活力を生み出す拠点づくりに挑戦します。

## 4 可能性への挑戦に向けた市の取組み

那珂市に活力を呼び起こし、市が更に飛躍するための助走期間として、市役所は令和元年度に以下の取組みを実施し、令和2年度からの挑戦に向けた体制づくりを進めます。

### 令和元年度の取組み

内容	推進体制
<p>①職員の意識改革</p> <p>職員提案制度の刷新や職員研修の充実化等の職員教育への取組みをとおして、市民サービスを向上させるとともに、職員の意識改革と政策形成能力を向上させます。</p>	<p>◆従前事業の見直し</p> <p>行財政改革推進室所管の職員提案制度を刷新します。 職員研修を充実させ、職員の政策形成能力を向上させます。</p>
<p>②手法・手段についての全庁的な検討</p> <p>活力ある未来を創るための項目についてプロジェクトチームを編成します。</p>	<p>◆プロジェクトチームの設置</p> <p>プロジェクトチームの手法により、活力ある未来のための手法、手段について、検討します。</p>
<p>③早急に支援を要する項目のニーズ調査</p> <p>問題顕在化のリスクがある項目について、ニーズ調査を早急に実施します。</p>	<p>◆担当課による実施</p> <p>ニーズを調査し、問題の所在を把握します。</p>
<p>④組織改編の検討</p> <p>機動的な組織体制の構築に向け、どのような行政組織機構が望ましいのか、検討します。</p>	<p>◆行政組織見直し検討委員会による検討</p> <p>本ビジョンの推進に必要な組織の在り方を検討します。</p>
<p>⑤実施計画策定方針の見直し</p> <p>本ビジョンの構想を事業実施に反映させるため、実施計画策定の過程において、重点化項目を設けるなど、ビジョンの着実な実施のための体制を整えます。</p>	<p>◆担当課による実施</p> <p>管理部門において、本ビジョンを総合計画や行財政改革大綱の実実施計画に適切に反映できるよう連携を取って策定します。</p>

### 令和2年度の取組み

内容	推進体制
<p>○本格的なプラン実施</p> <p>令和元年度に実施するニーズ調査及びプロジェクトチームによる検討結果を踏まえ、新たな組織の下で活力あふれる那珂市への挑戦を全庁的に取り組みます。</p>	<p>◆新機構の導入</p> <p>組織改編により機動的な行政運営を推進します。</p>

## 5 実行力を重視したビジョンの推進

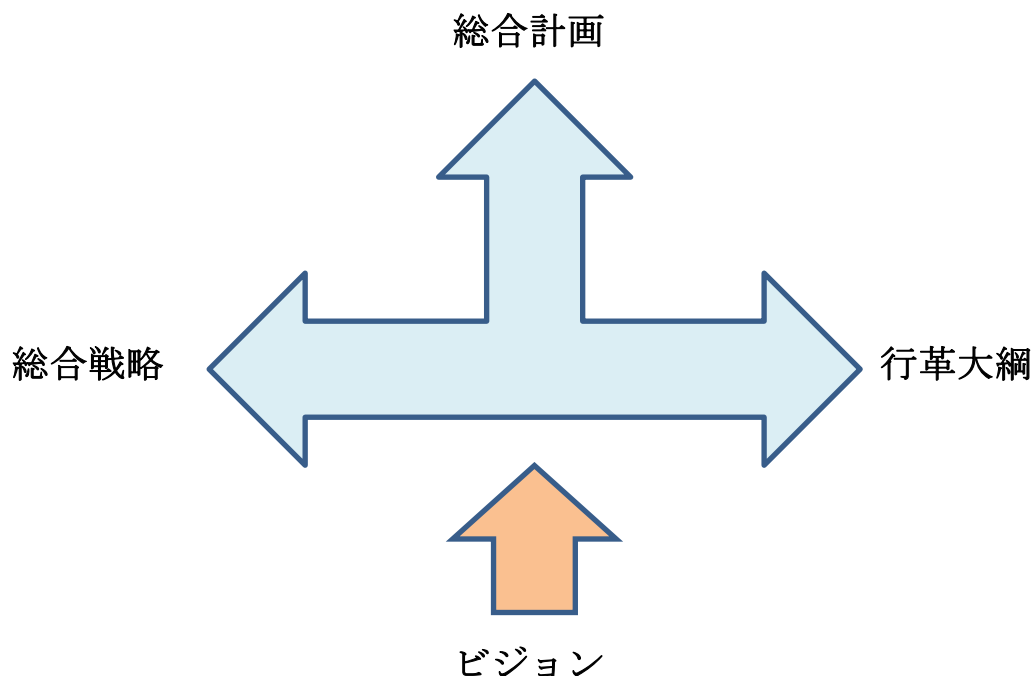
選択と集中の視点に立って、本ビジョンにおいて設定した3つの基本方針に基づき、予算の重点化を実施します。また、市に活力を呼び起こすための分野横断的な取組みに向けて、第2次那珂市総合計画に掲げる施策を着実に推進していくとともに、那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略並びに第4次行財政改革大綱と本ビジョンとを一体的なものとして強力に推進していきます。

○本ビジョンに掲げる施策を着実に実施していくためには、全庁的な協議と共通理解が欠かせないことから、「プロジェクトチーム」の手法により組織横断的な推進を図ります。

○機動的かつ効果的に施策を推進できるよう、仕事の生産性を高めるとともに、緊急性、重要性の高い分野に重点的に職員を配置するなど、これまで以上に戦略的な組織体制の見直しを行います。

○那珂市が将来にわたって飛躍していくため、スクラップアンドビルドの徹底により、限られた財源を活力の好循環を生み出す施策に重点的に配分していきます。

<本ビジョンと各種計画との関係性>



# 可能性への挑戦・那珂ビジョン推進計画

基本方針	目指すべき姿 【アウトカム】	取組事項	新規 拡充	R1~2 短期的取組み	R3~4 中期的取組み	R5~ 長期的取組み	
I 活力ある担い手の「育成」	(1) 自治活動への参加意識の形成	⇒各まちづくり委員会を対象とした自治活動支援の調査	新規	実施	実施	実施	
		⇒自治活動の魅力と必要性を再認識できる取組みの実施（出前講座制度の見直し）	拡充	検討 実施	実施	実施	
		⇒まちカフェ、地域フォーラムの充実や、広く市民の目に触れるようなあらゆる手段を用いた自治活動の広報	拡充	検討 実施	実施	実施	
		⇒地域の課題を解決しようとする若者をはじめとした市民・団体を対象とした、新たな育成制度の検討（協働のまちづくり指針の見直し）	拡充	P T 検討	実施	実施	
		⇒地域の活力を呼び起こす地域おこし協力隊の導入	新規	調査・検討 方針決定			
	【自治活動への参加意識の形成】						
		(2) 新たな人材の発掘と育成	⇒起業しようとするかたを対象とした「場」の整備	新規	調査・検討	実施	実施
			⇒ICT関連教育拠点の整備の調査検討	新規	調査・検討	方針決定	
			⇒新設幼稚園の教育課程への英語教育・運動指導の導入	拡充	実施	実施	実施
	⇒職員の外部団体への派遣やインターンシップによる外部人材の受入れ・任期付職員制度の活用		拡充	実施	実施	実施	
	【那珂市に関わりを持つ人を育て、増やす】						
	(3) 市民に元気を与える那珂市役所	⇒プロジェクトチーム等の組織横断的な手法の導入	新規	実施	実施	実施	
		⇒職員研修や職員提案制度の刷新	拡充	検討 実施	実施	実施	
		⇒組織の活力を生み出す組織目標の策定	新規	P T 検討 実施	実施	実施	
⇒業務フローのデジタル化・標準化による仕事の「見える化」の推進（業務マニュアルの作成）		新規	P T 検討 実施	実施	実施		
⇒AI/RPAの導入に向けた調査検討		新規	調査・検討	実施	実施		
【職員の意識改革と活力向上】							

# 可能性への挑戦・那珂ビジョン推進計画

基本方針	目指すべき姿 【アウトカム】	取組事項	新規 拡充	R 1～2 短期的取組み	R 3～4 中期的取組み	R 5～ 長期的取組み	
Ⅱ 住みよさを支える活力への「支援」	(1) 活力ある学びと文化への支援	⇒提案型の事業を対象とした市民活動支援事業の見直し	拡充	検討 方針決定			
		⇒着実に活動を行っている個人・団体を対象とした活動支援や連携の推進	拡充	調査・実施	実施	実施	
		⇒「清水洞の上」、「額田城跡」等について、市民と連携した文化的資源の有効活用の検討	拡充	検討・実施	実施	実施	
		⇒中学校校外部活動指導員等への地域型スポーツクラブの活用等について、学校と地域の連携策の調査	拡充	調査	実施	実施	
		⇒コミュニティスクールについて、白鳥学園以外への調査検討	拡充	調査	方針決定		
		⇒民間の空きスペースや建物について、活用したいと考えるかたとのマッチングや利活用策について調査検討	新規	調査	実施	実施	
		⇒イベント等の誘致や開催の支援	拡充	実施	実施	実施	
	(2) 安全・快適なまちづくり活動への支援	⇒防犯灯のLED化の促進	拡充	実施	実施		
		⇒下水道・合併処理浄化槽への転換の支援	拡充	実施	実施	実施	
	(3) 子育て・生きがいくり活動への支援	⇒民間資力の活用による待機児童・学童対策の実施	拡充	実施	実施	実施	
		⇒寺子屋活動・こども食堂活動に対する支援策の調査検討	新規	調査 方針決定			
		⇒包括的子育て支援施策の実施	新規	検討・実施	実施	実施	
		⇒地域包括ケアシステムの充実	拡充	実施	実施	実施	
		⇒包括支援体制整備事業における総合窓口の設置	新規	実施	実施	実施	
		⇒社会的障壁（物理的、制度的、情報、意識）を取り除くバリアフリー化の推進	拡充	実施	実施	実施	
		【支援による学びと文化の活性化】					
		【安全で快適に生活できる環境の形成】					
		【だれもが活力を持って活動できるまちの実現】					

# 可能性への挑戦・那珂ビジョン推進計画

基本方針	目指すべき姿 【アウトカム】	取組事項	新規 拡充	R1～2 短期的取組み	R3～4 中期的取組み	R5～ 長期的取組み
Ⅲ 活力ある未来への「投資」	(1) 那珂市の地の利を活かした取組みへの投資	⇒那珂西部工業団地等について、県との連携による企業誘致活動の強化	拡充	実施	実施	実施
		⇒進出企業を対象とした税制の優遇策・補助金等の検討	拡充	P T 検討 方針決定		
		【 <u>地域資源と新たな魅力を生かした稼げる産業の創出</u> 】 ⇒那珂市版自転車活用推進計画の策定	新規	P T 検討（周遊ルートの設定） 自転車計画策定	イベント実施	道路・拠点整備
		⇒那珂核融合研究所が有する先進技術と地場産業のマッチングの調査検討	新規	P T 検討（那珂研含む）	方針決定	
	(2) 産業・生活基盤の整備	⇒国道118号の4車線バイパス化、パードラインの県道昇格及び4車線化に向けた取組みの推進 ⇒都市計画道路について、計画に則った整備の推進	拡充	実施	実施	実施
		⇒農業の6次産業化や商品ブランド認証等による、魅力ある商品の開発・発信・販路拡大の検討	拡充	検討・実施	実施	実施
		⇒茨城北部幹線道路・那珂インターチェンジを活用したまちづくりの調査検討	新規	調査・検討	調査・検討	方針決定
	(3) 公共施設の適正化	⇒公共施設等マネジメント計画（個別計画）の策定	拡充	調査	策定	
		⇒市の活力につながる未利用資産の適正な処分	新規	J A 常陸東部支店跡地、上菅谷駅北駐車場、シルバー人材センター	検討・売却	検討・売却
		⇒学校立地の適正化について検討	新規	調査	調査	方針決定
		【 <u>さらなる活力を生み出す拠点となる公共施設の最適化</u> 】 ⇒公共施設の整備・運営手法について、民間活力の活用を視野に入れ、手法と可能性を調査検討	拡充	調査	方針決定	
		⇒消防署については、施設の老朽化及び国道118号の4車線バイパス化による改修に伴い、統合を検討	新規	調査・方針決定		
⇒学校給食センターの管理運営方法について検討		新規	調査	方針決定		